



神戸天然物化学株式会社

**2022年3月期第3四半期  
決算補足説明資料**

証券コード：6568

2022年2月10日



# 1. 2022年3月期第3四半期決算実績



## 2022/3期第3四半期決算におけるポイント

1

累計決算は前年比で増収営業増益。3Q単独では営業利益が前年比2.5倍に。受注、生産ともに好調に推移

2

通期見通しは従来想定を据置（11%増収10%営業増益）。販売見込みは順調であり、超過達成にも手応え

3

コロナ禍による原料調達の遅延はほぼ解消も懸念は残る  
また、原料価格の上昇は今後の懸念材料



# 1-1. 2022/3期3Q累計 経営成績

- 対前年では12.3%増収59.9%営業増益。EBITDAマージンも26%超を回復
- 通期業績見通しへの進捗状況は、4Q偏重型の事業構造を考えればほぼ想定範囲内
- 分野別では、バイオ分野では開発ステージが、機材分野では量産ステージが、それぞれ好調を牽引。医薬分野は下期の出荷集中に向けて在庫の積増しを継続

## 経営成績の推移

(百万円)	2020/3期	2021/3期		2022/3期		前年同期比	2022/3期 進捗率
		3Q累計	通期	3Q累計	通期見通し		
売上高	6,347	3,915	6,029	4,399	6,700	+ 12.3%	65.7%
機能材料分野	2,249	1,718	2,150	1,904	2,325	+ 10.8%	81.9%
医薬分野	2,846	1,675	2,937	1,621	3,020	△3.2%	53.7%
バイオ分野	1,250	521	940	873	1,355	+ 67.4%	64.5%
営業利益	574	295	635	472	700	+ 59.9%	67.5%
経常利益	644	322	677	479	710	+ 48.5%	67.5%
経常利益率	10.2%	8.2%	11.2%	10.9%	10.6%	+ 2.7pp	—
当期純利益	518	162	399	254	440	+ 56.4%	57.8%
EBITDA*	1,377	984	1,575	1,151	1,618	+ 16.9%	71.1%
EBITDAマージン*	21.7%	25.1%	26.1%	26.2%	24.1%	+ 1.0pp	—

\* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



## 1-2. 四半期別経営成績推移

- 3Q単独では営業利益は前年比2.5倍。売上・利益ともにコロナ禍発生前の水準をほぼ回復
- 3QEBITDAマージンは2019/3期4Q以来の30%超。
- 事業領域別では機能材料・バイオ分野が好調に推移

四半期別経営成績の推移

	2020/3期				2021/3期				2022/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	1,012	1,450	1,567	2,317	1,064	1,525	1,325	2,113	975	1,866	1,556
機能材料	537	552	561	597	494	638	586	432	468	717	718
医薬	226	763	597	1,260	476	631	566	1,262	228	804	588
バイオ	249	134	408	459	93	255	173	418	278	344	250
営業利益	△20	92	260	242	△8	204	99	339	△46	269	250
経常利益	1	102	281	259	12	215	94	354	△45	273	252
経常利益率	0.2%	7.1%	18.0%	11.2%	1.2%	14.1%	7.1%	16.8%	△4.7%	14.6%	16.2%
当期純利益	△3	137	193	191	3	164	△5	237	△104	189	168
EBITDA*	164	279	461	472	237	428	319	590	168	488	493
EBITDAマージン*	16.2%	19.3%	29.5%	20.4%	22.3%	28.1%	24.1%	27.9%	17.3%	26.2%	31.7%

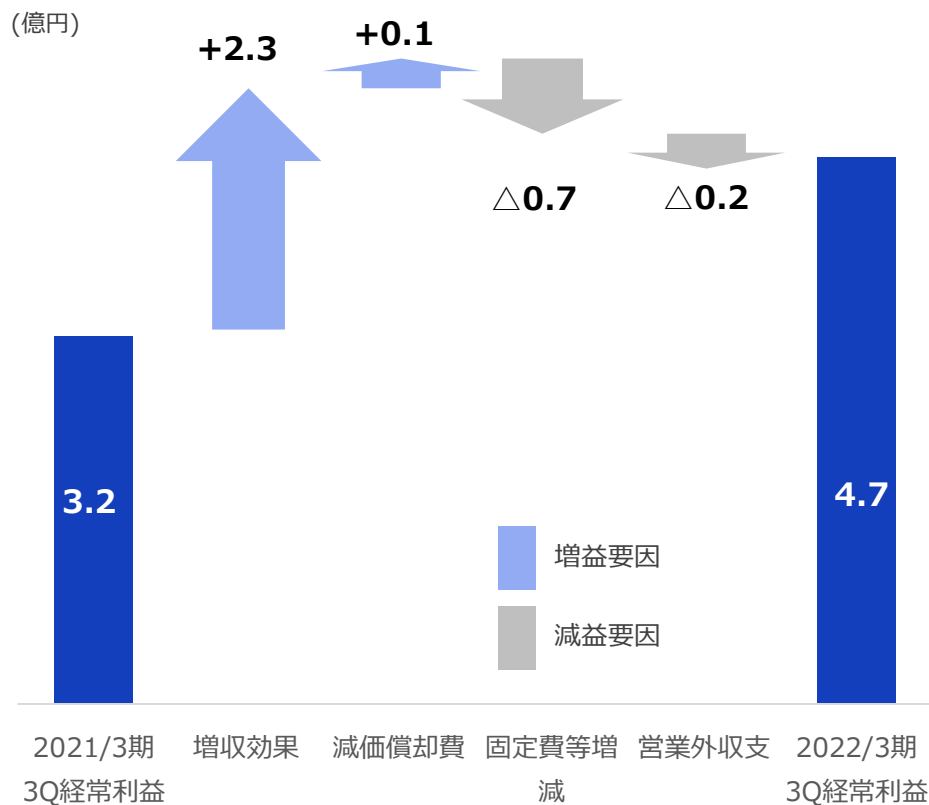
\* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出



# 1-3. 2022/3期3Q累計 経常利益増減要因分析

- 3Q累計での経常増益は増収効果が牽引。機材の量産ステージ、バイオの開発ステージが好調に推移。人件費増などの固定費上昇や助成金収入減の影響などを吸収
- 唯一、減収となった医薬では量産ステージ受注は順調ながら、販売は4Q集中の見通し

## 2022年3月期3Q経常利益の増減要因



- 増収効果 +2.3億円  
機能材料分野：量産ステージ販売が順調  
医薬分野：減収ながら出荷は4Q集中の見通し  
バイオ分野：開発ステージ好調継続で採算改善
- 減価償却費の減少 +0.1億円  
減価償却費 6.8億円  
主な設備投資実績 6.1億円
- 固定費等の増加 △0.7億円  
人件費 △0.7億円
- 営業外収支の悪化 △0.2億円  
助成金収入減 △0.2億円



# 1-4. 2022/3期3Q末 財政状態

- 売掛金回収や未払金支払が進捗。総資産は若干の縮小に
- 4Qの医薬量産案件の出荷集中に向け、仕掛品を中心に在庫は更に積増し
- 自己資本比率は82%。財務安全性に変化なく、資金回収も順調

## 財政状態の推移

(百万円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期3Q	前期末差異
流動資産	4,335	5,137	4,835	△301
現預金	1,476	1,962	1,404	△558
売上債権	1,528	1,141	731	△410
棚卸資産	1,285	1,742	2,603	+860
固定資産	8,435	7,643	7,535	△107
総資産	12,770	12,780	12,371	△409
負債	2,943	2,660	2,167	△493
有利子負債	1,428	1,443	1,173	△269
その他	1,515	1,216	993	△223
純資産	9,827	10,120	10,204	+83
負債純資産合計	12,770	12,780	12,371	△409

前期末に膨らんだ  
売掛金回収進む

医薬量産案件において  
意図的に在庫積増を継続

設備投資額：6.8億円  
減価償却費：6.1億円

有利子負債は順調に圧縮

設備未払金解消

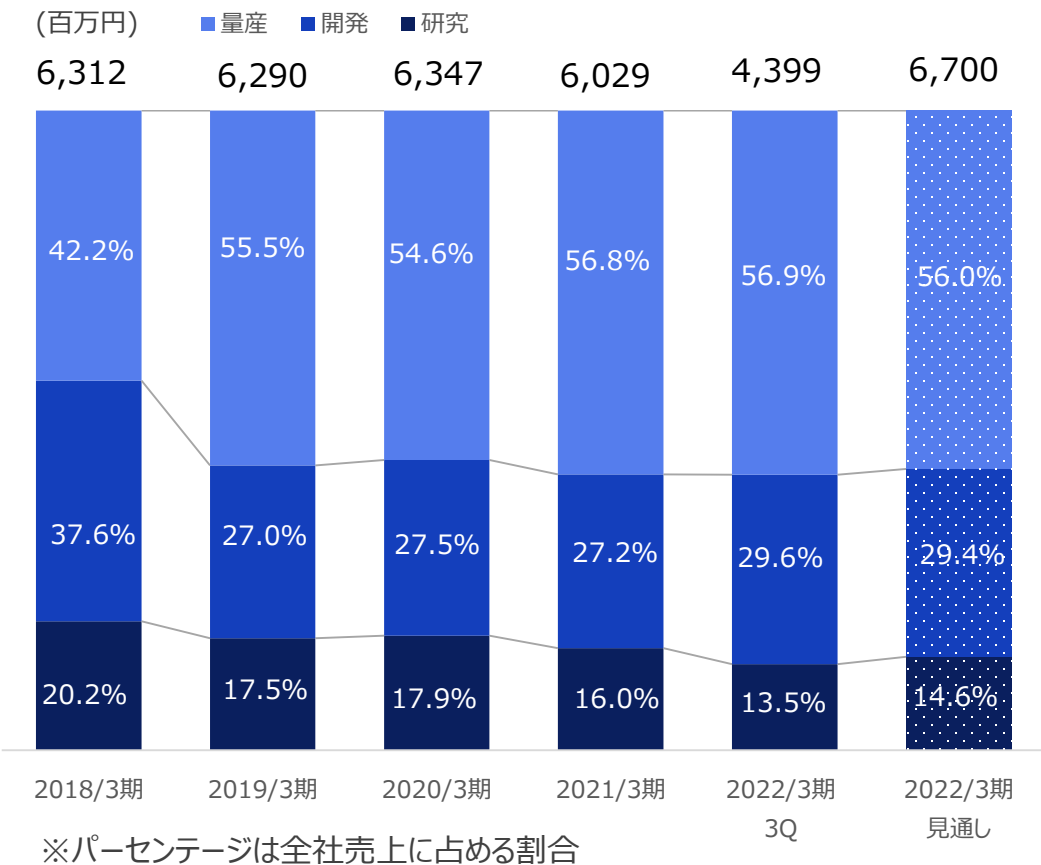
自己資本比率82.5%



# 1-5. ステージ別売上高比率

- 3Q累計では量産ステージの売上比率が徐々に拡大。設備稼働率の向上に貢献
- 成長ドライバーとなる量産ステージへの入口となる開発ステージも引続き順調。現状のステージアップの進捗は当社にとって理想的な展開。引続き、研究・開発案件の獲得に注力

## ステージ別売上割合推移



- 機能材料分野
  - ・量産ステージ中心の展開に変更なし
  - ・エレクトロニクス関連の開発ステージ案件も増加傾向
- 医薬分野
  - ・開発ステージ拡大も、3Qまでは量産ステージの在庫積み増しに注力
  - ・量産ステージの出荷は4Q集中の見込み
  - ・引続き研究・開発ステージ案件増に注力
- バイオ分野
  - ・開発ステージ好調により、設備稼働率改善
  - ・引続き案件増に向けて注力継続





## 2. 2022年3月期通期見通し及び中期投資方針



## 2-1. 需要分野別状況

- ウィズコロナ下での新たな社会的ニーズは、当社にとっても大きなビジネスチャンスと認識
- 機材分野では情報機器向けの需要拡大が、バイオ分野では種々のボトルネック解消が、それぞれ当期の好調を牽引

機能材料分野

**+8.1%**  
増収見通し

- **エレクトロニクス関連(半導体材料、ディスプレイ材料など)**
  - ✓ 情報化ニーズ対応の量産・開発ステージ需要が拡大
- **医農薬関連中間体(薬機法規制外)**
  - ✓ 安定供給及び安定品質の実績評価が浸透し、引合い増加に弾み

医薬分野

**+2.8%**  
増収見通し

- **医薬原薬・医薬中間体関連**
  - ✓ 生産能力増強で案件取組み余力が拡大
  - ✓ 多種多様な品目の生産実績の蓄積から、多様なニーズへの対応能力への評価が浸透

バイオ分野

**+44.1%**  
増収見通し

- **医薬原薬・医薬中間体関連**
  - ✓ バイオ関連ニーズは概して幅広く根強い。
  - ✓ 前期発生したコロナ禍による材料調達遅延も足元はほぼ解消。能力面、材料面でのボトルネックは解消



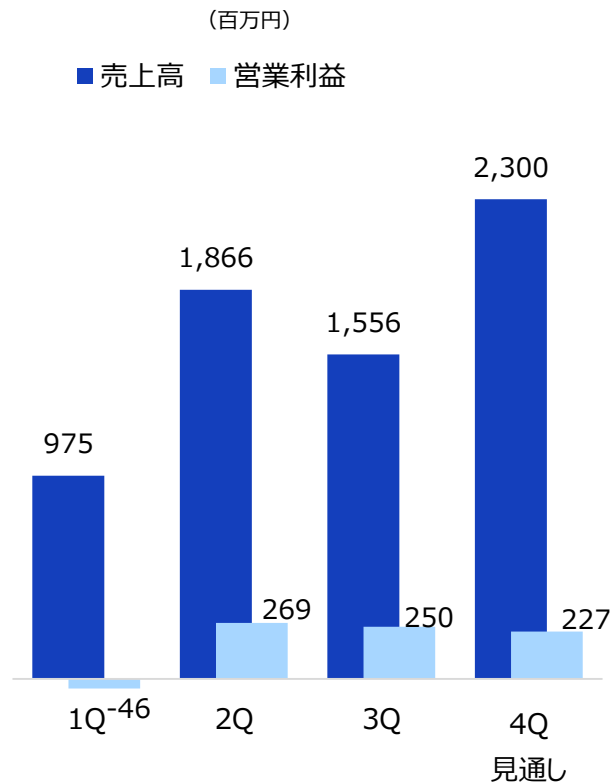
## 2-2. 2022/3期見通し

- 通期見通しは従来想定を据置（11%増収10%営業増益）。超過達成も視野に入るとの手応えながら、コロナ禍や原料価格上昇などの不透明要因多く、保守的に想定
- 4Q単独では対前年で9%増収33%減益の想定。しかし、大型案件の出荷集中が予定通りとなれば上ブレの可能性も。EBITDAマージンが4Qで急激に悪化する材料は現時点で見当たらず

### 2022年3月期見通し（四半期別）

(百万円)	1Q	2Q	3Q	4Q見通し	通期見通し
売上高	975	1,866	1,556	2,300	6,700
前年比	△8.4%	+22.4%	+17.4%	+8.9%	+11.1%
機能材料分野	468	717	718	420	2,325
医薬分野	228	804	588	1,398	3,020
バイオ分野	278	344	250	481	1,355
営業利益	△46	269	250	227	700
前年比	-	+25.1%	2.5倍	△33.0%	+10.1%
経常利益	△45	273	252	230	710
当期純利益	△104	189	168	185	440
EBITDA*	168	488	493	466	1,618
EBITDAマージン*	17.3%	26.2%	31.7%	20.3%	24.1%

\* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



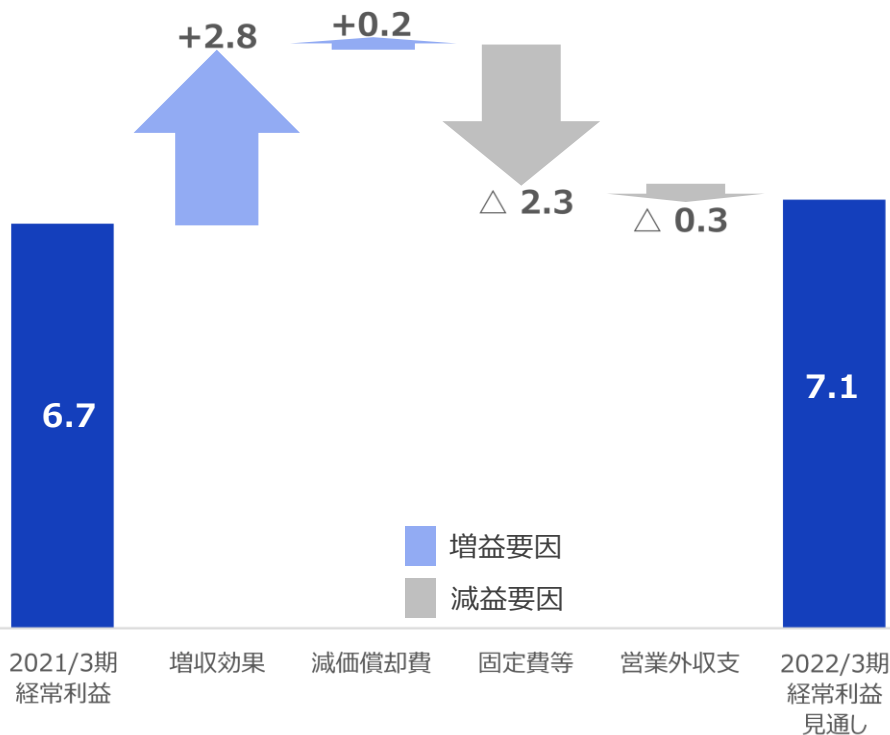


## 2-3. 2022年3月期 経常利益増減要因分析（見通し）

- 通期経常増益の要因分析も従来想定に変化なし。増益の牽引役は増収効果。投資一巡による減価償却費減少もあり、人件費などのコスト増を吸収する見通し
- リスクはコロナ禍に起因する原材料価格の上昇や原料調達遅延。ただし、既にある程度のコスト上昇は織り込み済

### 2022年3月期 経常利益の増減要因（見通し）

(億円)



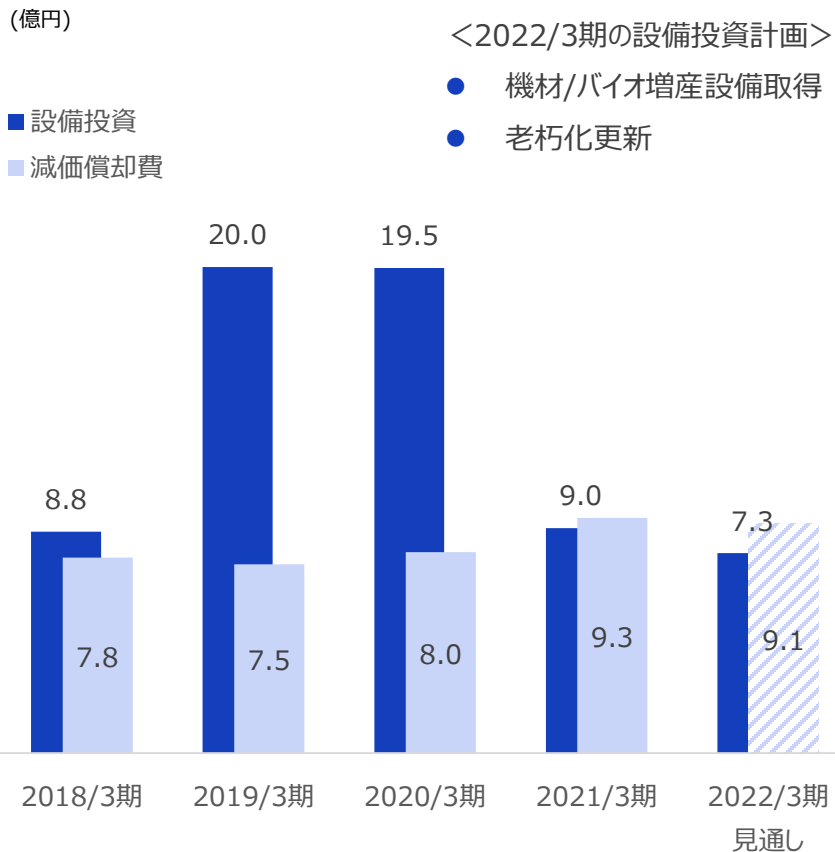
- 増収効果 +2.8億円  
機能材料、医薬分野：需要拡大  
バイオ分野：材料調達難緩和により回復
- 減価償却費の減少 +0.2億円  
減価償却費 9.1億円  
設備投資 7.3億円  
・バイオ分野の医薬増産対応  
・老朽化設備の更新 など
- 固定費等の変動 △2.3億円  
人件費の増加 △1.6億円  
その他 △0.7億円
- 営業外収支 △0.3億円



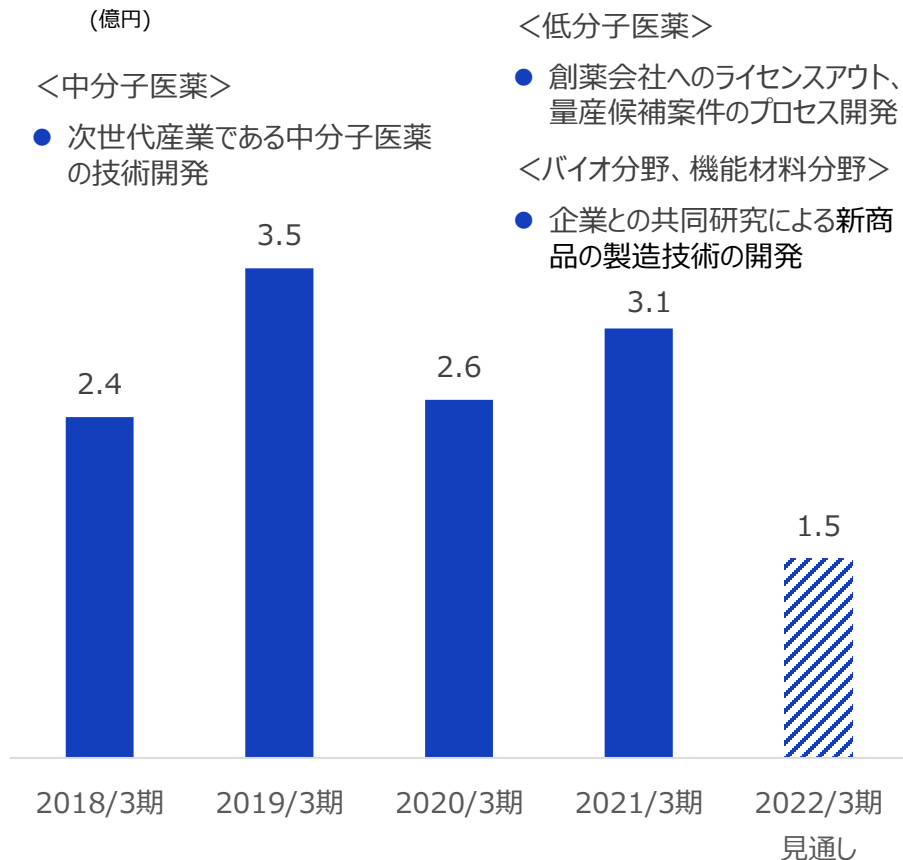
## 2-4. 設備投資・研究開発動向

- 設備投資・R&Dの2022/3期計画にも変更なし。設備投資は機材/バイオ分野の増産対応などを中心に7.3億円。R&Dはコアとなる研究開発案件中心に1.5億円を計画
- 2023/3期以降は設備投資・R&Dとも成長に向けて徐々に拡大を計画

### 設備投資と減価償却費の推移(CFベース)



### 研究開発費の推移





## 2-5. 中期投資方針

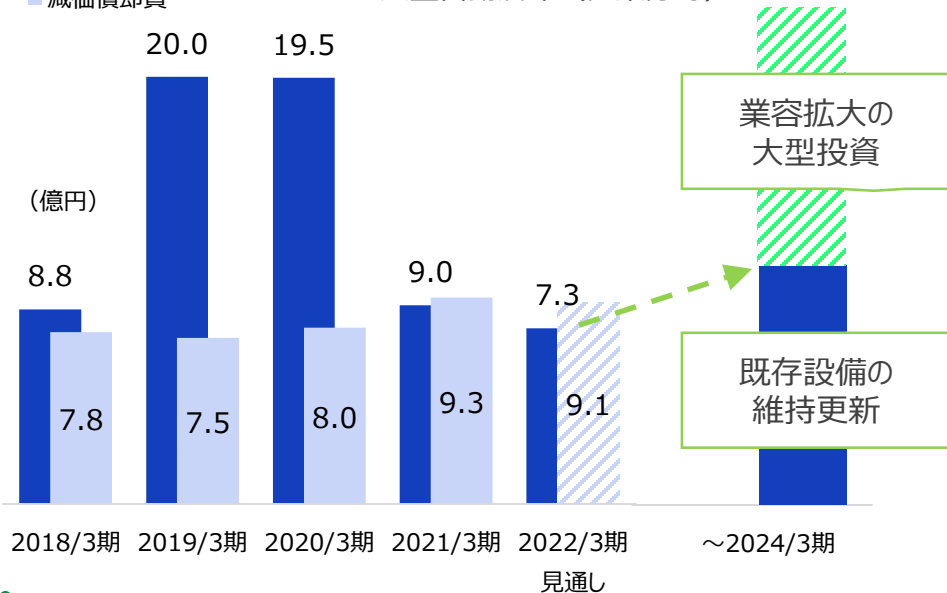
- **設備投資**：生産能力の限界が当社成長のボトルネック。今後は成長余力獲得に向けて、好機を見据えて躊躇せずに業容拡大の大型投資を実施する計画。DX化により生産性向上も推進
- **人材投資**：当面は10-15名/年の人員増強を計画。2022/3期より「人材開発教育プログラム」による既存のOJTシステムと合わせ、人材開発をスピードアップ
- **研究開発投資**：新規技術・受注などの獲得へ向け研究開発を継続

### 設備投資方針

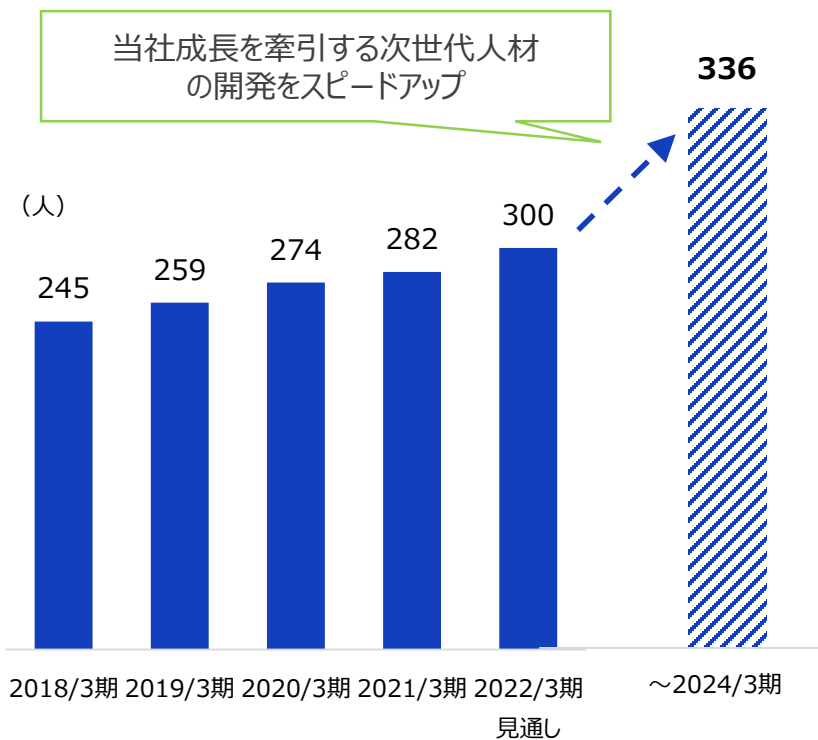
<主な大型投資計画>

- 新規品質管理棟（機能材料分野）
- 大型自動倉庫（医薬分野）

■ 設備投資  
■ 減価償却費



### 人材投資方針





## < 見通しに関する注意事項 >

---

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先  
経営企画室 IR担当  
078-955-9900 (代表)  
knc-ir@kncweb.co.jp